Online edition ISSN 2188-5613　Print edition ISSN 2188-5931

No.34

日本情報考古学会会報

NEWSLETTER OF THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION No.34 April 2014

目　次

日本情報考古学会第 32 回大会 in NARA 参加記
平川ひろみ 1
日本情報考古学会第 32 回大会プログラム（記録）
..... 3
2013 年度第 2 回理事会議事録 5
2014 年度会費納入のご案内 6
会員管理システムの停止について 6
『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布 6
会員・賛助会員（法人等）の募集 6

日本情報考古学会第 32 回大会 in NARA 参加記

平川ひろみ

立春を過ぎてもなお寒さの残る 2014 年 3 月 29・30 日、日本情報考古学会第 32 回大会が奈良市の帝塚山大学東生駒キャンパスで開催されました。今大会のテーマは「考古学とデータベース」。テーマに関する特別講演、研究発表（一般講演）のほか、その他幅広い領域の研究発表が行われました。特別講演が 2 件、研究発表が 20 件で、研究発表については前大会に引き続き、口頭発表とポスターセッションの 2 つの形式が設けられ、活気に満ちた大会となりました。

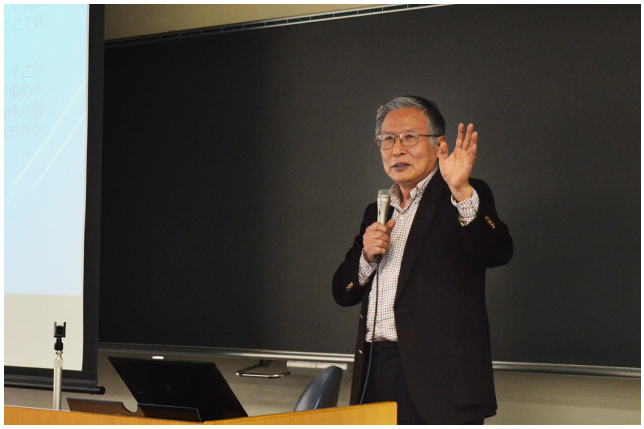
1 日目は、大会実行委員長の横見博之先生（帝塚山大学名誉教授）による開会の挨拶に始まり、研究発表 9 件のほか、特別講演「貝塚データベース — 作成から利用まで —」を及川昭文先生（総合研究大学院大学）にご講演いただきました。考古学の研究において便利に活用できる柔軟性あるデータベース構築の重要性とその事例について、先生のご研究・開発の過程を含めたお話でした。時折ユーモアを交えながらのお話に参加者は聞き入っていました。

1 日目の午後 6 時から学生食堂で懇親会が行われました。三辻利一先生（鹿児島国際大学客員教授、奈良教育大学名誉教授）の音頭で、皆で元気よく乾杯しました。久しぶりの再会に旧交を温める姿、発表内容について議論をする姿があちこちで見られましたが、学生も多く参加しており、世代の差、研究分野の違いを超えて意見交換をする姿が印象に残りました。途中、佐藤宏介先生（大阪大学）に、約 20 年に及ぶ本学会の振り返りとご自身の“想い”についてスピーチをしていただきました。終了時間まで参加者は和やかに懇親を深めました。

開会式。横見博之大会実行委員長の挨拶。

会場の様子。

2 日目は、4 件の研究発表に引き続き、宝珍輝尚先生（京都工芸繊維大学）に「考古学データベースの緩やかな連繋に向けて」と題する特別講演をしていただきました。考古学で個々に作成されたデータベースをいかに連繋させるかという、困難であっても考古学の


特別講演 1。及川昭文先生。

特別講演 2。宝珍輝尚先生。

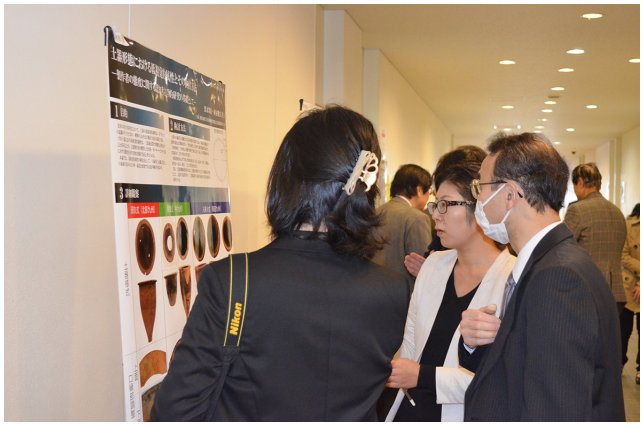
懇親会の様子。

研究発表と質疑応答。

発展のためには避けて通れない重要な課題についてのお話で、興味深いものでした。昼食後は、ポスターセッションの解説時間。前回大会から導入されたポスターセッションですが、ポスターを前に多くの議論が飛び交い、前回同様活気がありました。私自身もポスターセッションで発表をしましたが、研究テーマに関して多様なご専門の方々と討論でき、有益な情報をいただくなど、大変充実した時間を過ごすことができました。ポスターセッションの後は、それぞれ特徴ある研究発表が 3 件あり、閉会式を迎えました。植木武会長より閉会の挨拶があり、次回大会の盛会を期して無事に幕を閉じました。

今大会は、20 件の研究発表がありましたが、どれも独自性に富む特徴あるもので、データベース、製作者の身体技法、三次元計測、電磁気探査、古地震、胎土分析、さらには認知考古学など、多彩なテーマがありました。まるで「研究のサラダボウル」。先端的な研究が多く、分野を超えた質疑応答などもあり、見ごたえ抜群でした。

また、前回大会と同様（「会報」No.33）、大学院生を含む若手研究者の参加・発表が目立ったのが大きな特徴といえます。特に、大学院生を含む女性の若手研究者が目立ち、これは関連学会においても、一つの快挙とさえいえると思います。若手研究者が自らの研究を自由に発表し活発に交流をする、また年配の研究者がそれに助言したり議論したりする――全体的に若手研究者の成長を促す機運が自然と出てきているように感じました。大会は会員の誰もが自由に発表できる場ではありますが、最近の特徴としては、若手研究者が自ら輝ける場、成長する場として、他の学会にはない魅力と特徴を兼ね備えつつあり、何かが生まれ変わ



ポスターセッションの様子。

閉会式。植木 武会長の挨拶。

ろうとしている、と強く感じました。今後も日本情報考古学会に期待したいと思います。

最後に、私は事務局の一員でもあるわけですが、事務局関係の学生の皆さんが大会当日の受付などいろいろと働いてくれました。彼らは不慣れで完璧とはいえなかったかと思いますが、参加者の方々に温かく見守っていただいたおかげで、成功裏に終えることができました。今後も、参加者の誰もが学び合い、励まし合い、刺激し合う場であり続けてほしいと願っています。

（平川ひろみ）

日本情報考古学会第 32 回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第 32 回大会は以下のような日程・内容で行われました。ここに記録としてプログラムを掲載します。

期日：2014 年 3 月 29 日（土）・30 日（日）
会場：帝塚山大学東生駒キャンパス（奈良市帝塚山 7-1-1） 6 号館 6112 教室

―大会プログラム―

テーマ：「考古学とデータベース」

3 月 29 日（土）

開会式 13:00-13:10

開会挨拶　大会実行委員長　横見 博之

（座長　川宿田好見）

研究発表 1　13:10-13:30
データベースで考古学―民族考古学への活用事例―
岡安光彦（株式会社四門　文化財事業部）

研究発表 2　13:30-13:50
古墳の立体地図情報の築造規格研究への適用について
西村　淳（函館大学）

研究発表 3　13:50-14:10
貝塚時代前Ⅳ期における南西諸島と南九州のインタラクション―縄文的イデオロギーの転換・維持・変容―
平良理揮（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 4　14:10-14:30
2 台の力覚提示装置の協調動作に基づく遺物の仮想展示システムの検討
赤間勇也、松山克胤、田中隆充、今野晃市（岩手大学）

研究発表 5　14:30-14:50
“ 模倣 ” に関する考古学的一試論―より具体的な解釈の方法をめざして―
平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

特別講演 1　15:00-16:00
貝塚データベース―作成から利用まで―
総合研究大学院大学　及川昭文　先生

（座長　岡安光彦）

研究発表 6　16:10-16:30
開ケ丘遺跡群出土土師器の蛍光 X 線分析
三辻利一（鹿児島国際大学）、古川知明、小黒智久（富山市教育委員会）

研究発表 7　16:30-16:50

土器形態における低視覚的属性の検討 ― 製作者の態度に関する認知考古学的視点 ―（第 2 報）

黒木梨絵（(公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

研究発表 8　16:50-17:10

多数の遺物を一括測定可能なレーザー型自動計測システム

村木祐太（大阪工業大学）、アルタンツェツェグ・エンフバヤル（岩手大学）、千葉　史（株式会社ラング）、松山克胤、今野晃市（岩手大学）

研究発表 9　17:10-17:30

電磁気学的手法による前田利長墓所の研究

泉　吉紀、菅頭明日香、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）、岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、田上和彦、廣瀬勇也（高岡市教育委員会）

懇親会　18:00-20:00　於 帝塚山大学内大学食堂

3 月 30 日（日）

（座長　黒木梨絵）

研究発表 10　10:00-10:20

新潟県における古地震の考古学からの研究アプローチ

加藤　学（(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団）、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）、中埜貴元（国土地理院）

研究発表 11　10:20-10:40

ヒトの運動習慣（モーターハビット）生成のメカニズム―過去における土器製作者・社会・文化の考古学的理解に向けて―

平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 12　10:40-11:00

磁化から探る考古遺物の熱履歴

酒井英男、泉　吉紀（富山大学大学院理工学研究部）

研究発表 13　11:00-11:20

北タイにおける土器製作者身体技法の記録と解析（続報）―モーションキャプチャの使用とその意義―

川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

特別講演 2　11:20-12:00

考古学テータベースの緩やかな連繋に向けて

京都工芸繊維大学教授　宝珍輝尚　先生

ポスターセッション　13:00-13:40　※研究発表番号・タイトル・発表者は右コラムに記載。

（座長　西村　淳）

研究発表 14　13:40-14:00

北部九州弥生時代中期 " 遠賀川以東系 " の跳ね上げ口縁甕の再検討―様式・型式・製作者のハビトゥスをめぐる諸問題―

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 15　14:00-14:20

鹿児島県大崎町麦田下遺跡出土土器の蛍光Ｘ線分析 ― 弥生時代後期初頭における高付式と西南四国系土器等の共伴例 ―

中園　聡（鹿児島国際大学）、内村憲和（大崎町教育委員会）、平川ひろみ、太郎良真妃（鹿児島国際大学）

研究発表 16　14:20-14:40

磁化特性による信州の原産地黒曜石の研究

菅頭明日香、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）

閉会式　14:40-14:50

閉会挨拶　日本情報考古学会会長　植木　武

※ポスターセッション

研究発表 17

土器の粘土帯はいかにして作られるか？―北タイの伝統的土器製作村における土器製作過程の三次元形状記録と観察―

中園　聡（鹿児島国際大学）、平川ひろみ、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、白井菜実（鹿児島国際大学）

研究発表 18

青森県内出土の縄文土器にみられる K-Rb、Ca-Sr の相関性

三辻利一（鹿児島国際大学）、太郎良真妃、平川ひろみ、楊　帆（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 19

土器形態における低視覚的属性とその検討方法―製作者の態度に関する認知考古学的研究の基礎として―

黒木梨絵、新屋敷久美子（(公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

研究発表 20

モンゴル・アウラガ遺跡における電磁気探査と焼土の磁化研究

岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）

2013 年度第 2 回理事会議事録

日　時：2014 年 3 月 29 日（土）10:00 ～ 12:55

場　所：帝塚山大学東生駒キャンパス　6 号館　6223 演習室・6113 教室

出席者：植木武（議長）、及川昭文、佐藤宏介、植村俊亮、梅澤重昭、岡安光彦、川宿田好見、中園聡、西村淳、宝珍輝尚、三瓶裕司、三辻利一、横見博之（監事）、平川ひろみ（事務局より陪席）

1. 報告

1. 2013 年度活動報告

第 31 回大会を鹿児島国際大学、第 32 回大会を帝塚山大学で開催し、今年度よりポスターセッションを導入した。理事会を 2 回開催した。学会誌及び会報 No.32、33 を発行し、PDF 化に努めた。収入増・会員増に努めた。

2. 2013 年度の会員数の異動について

会員増加の取り組みにより、新規会員が 20（正会員 11 名、準会員 7 名、賛助会員 2 件）あった。一方、退会は長期滞納者等の退会処理をしたほか、正会員 2 名・賛助会員 1 件の届けがあった。

3. 学会誌編集委員会報告

学会誌『情報考古学』19 巻 1・2 号合併号を発行した。著者から学会誌掲載論文を国立情報学研究所サイトに掲載したい旨の申し出があり承認した。その他、学会誌の投稿状況について報告された。

4. 国立国会図書館のオンライン資料収集について

学会 HP 掲載の『会報』が国立国会図書館の自動収集対象となった。併せて欠号の PDF 化に取り組むとともに、ISSN 番号を付与する予定である。

5. その他

海外から『講演論文集』の献本の要請があり、事情を考慮し特別に献本することにした。

2. 審議事項

1. 2014 年度の活動・取り組み及び予算方針について

引き続き支出の抑制に取り組み、多方面にわたり従来方式の根本的見直しに取り組む。学会誌の電子化へのスムーズな移行を図る。会員増の取り組みを継続する。女性会員の増加や女性役員の登用に取り組む。大会等の広報活動に力を入れる。

財政面では様々な努力で、2013 年度決算での赤字化は防げる見込みである。2014 年度予算は、会員管理システム等を含む根本的な見直しをし、支出を抑え他の項目は従来実績を参考とする。大会は 2 回実施し活性化を図るとともに、参加人数を増やすことで増収を図る。2014 年度の収入は計 140 万円程度と見込んでいる。2014 年度の支出は、学会誌の前年度分の印刷製本費を支払う必要がある。次の第 20 巻は電子化等で安くなる可能性があるが、刊行回数や出版経費等未確定の部分がある。講演論文集の印刷・発行形式を再検討し安価に抑える。その他工夫をし、従来より抑える予定である。ただし、学会誌の未確定部分があるため、2013 年度と同程度となる場合も考えられる。なお、支出を絞るだけでなく戦略的に支出することも重要であり、引き続き検討する。（決算・予算等は総会を経て、会報で報告予定）。

2. 学会誌の電子化について（継続審議）

準備しつつあり、未確定部分の検討を進める。

3. 分科会の創設について（継続審議）

分科会の創設はしない。既存の研究グループ等をコアにして学会としての活動や大会でのセッションを行える形とし、各地で柔軟かつ活発な活動ができるようにする方向で概ね一致した。

4. 『情報考古学シリーズ』の刊行（継続）について

分科会ごとに刊行するなどの案もあったが、方針が変わったため、今後の課題として未審議。

5. 論文の学会誌掲載有料化について（継続審議）

様々な意見が出たが、投稿料等を将来有料化するか否か、全体的枠組みを含めて整理することとし、今後の課題とした。

6. 会員管理システムについて

財政状況、費用対効果等を検討した結果、契約更新はせず、事務局で遺漏のないよう会員情報を管理することに決定した。

7. 次回大会について

2014 年度は大会を 2 回開催する。次回は、9 月 27・28 日（予定）に東京の共立女子短期大学を会場として実施する方向で検討する。

2014 年度会費納入のご案内

新年度となりました。2014 年度会費納入（正会員 5,000 円、準会員（学生会員）3,000 円）のご案内をいたします。未納の方は下記の振込先にご納入ください。本学会は会員の皆様の会費で運営されています。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、本学会では会員の増加に取り組んでおります。皆様のご協力をお願いいたします。

2014 年度より、郵便振替口座・銀行口座ともに、下記の新しい口座に変更されました。旧口座へは振り込まないようご注意ください。

【郵便振替】
口座番号　01790-4-165018
加入者名　日本情報考古学会

【銀行から郵便振替口座への振込の場合】
店　　名　一七九（イチナナキュウ）店（179）
預金種目　当座
口座番号　0165018
口座名称　日本情報考古学会

振込名義の後に会費年度をご記入ください。
コウコ　タロウ 2014

【銀行振込】
銀 行 名　みずほ銀行
支 店 名　鹿児島支店（623）
預金種類　普通
口座番号　1244334
口座名義　日本情報考古学会

振込手数料等はご負担下さい。特にお申し出がない限り、領収書の発行はいたしません。振込の控えを大切に保管ください。会費納入に関するお問い合わせは、事務局までメールにてお願いいたします。

コンビニエンスストア払いは、都合によりご利用できなくなりましたので、あしからずご了承ください。

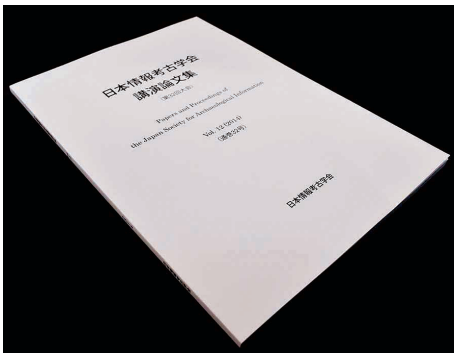
会員管理システムの停止について

昨年度より、業者委託による会員管理システムの運用を開始しておりましたが、本学会の財政状況と利用実績等にかんがみ、4 月半ばをもちましてシステムを停止することになりました。会員情報につきましては、今後、事務局独自システムでしっかりと管理してまいります。会員情報のご自分での変更はできませんので、住所・所属・役職・送付先等の変更や会費納入状況の確認等は、事務局までご連絡ください。

事情斟酌のうえご了承くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、今後同様のシステムを再開する場合は、改めてお知らせいたします。

『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布

『日本情報考古学会講演論文集』Vol.12（2014）（通巻 32 号）が発行されました。第 32 回大会の発表に関する論文等を収録しています（本文 106 頁）。頒価 2000 円（送料実費：メール便 1 冊 82 円）です。お持ちでない方は、ぜひ事務局までお申込みください。



会員・賛助会員（法人等）の募集

会員、賛助会員（法人等）を募集しています。お心当たりがありましたら、ぜひご案内ください。入会申込書、「賛助会員入会の手引き」は、本学会 HP に掲載しています。「学会」→「入会」でご覧になれます。

本学会は下記の賛助会員よりご支援いただいています。

株式会社 四門
株式会社 CUBIC
ほか

本会報に逐次刊行物 ISSN 番号を表示しました。オンライン版（HP に掲載）ともども、引き続きよろしくお願いいたします。

日本情報考古学会会報　No.34
2014 年 4 月 15 日
発行　日本情報考古学会事務局
〒 891-0197　鹿児島市坂之上 8 丁目 34-1
鹿児島国際大学中園聡研究室内
E-mail: archaeoinfoiuk＠gmail.com
http://www.archaeo-info.org/